



2021年3月期

(2020年4月1日 ~ 2021年3月31日)

決算・中期経営計画説明資料

ENOMOTO Co.,Ltd.

東証一部 証券コード:6928

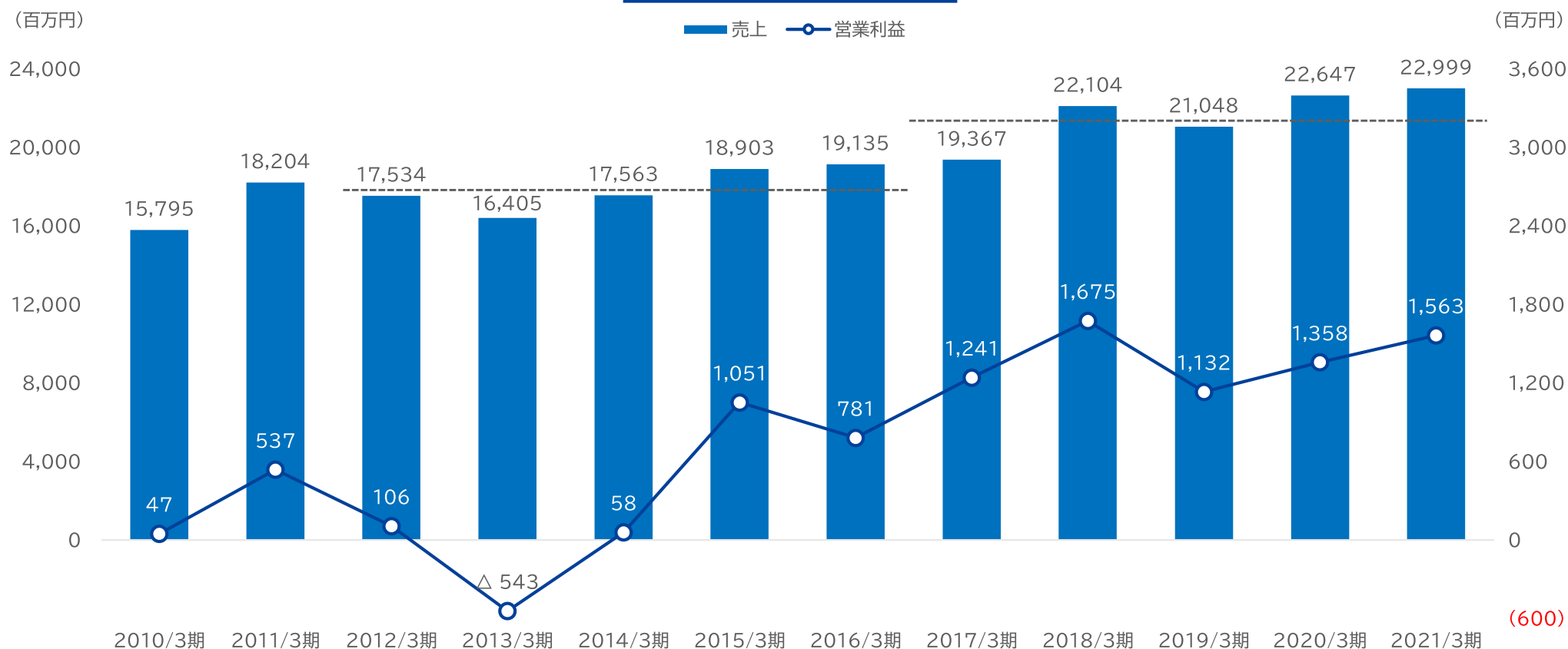
1. 会社概要	P. 3
2. 市場環境	P. 9
3. 特長・強み	P.14
4. 2021年3月期決算	P.20
5. 中期経営計画	P.29
6. 2022年3月期業績予想	P.41

1.会社概要



- 2015年以降、スマートフォン向けコネクタ、半導体用リードフレームの伸長で、売上高は230億円弱の水準へ
- 増収効果に加えて、難易度の高い狭ピッチコネクタ製品の伸長で、営業利益も15億円超の水準へ

売上高・営業利益の推移



(600)

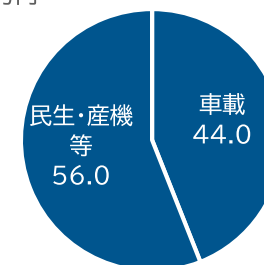
- ・ リードフレームでは車載向けを中心に高電圧・高電流仕様の製品が伸長
- ・ コネクタ部品ではスマートフォンやウェアラブル端末向けの狭ピッチ、低背製品が伸長

その他

売上高 688百万円
 構成比 3.0%

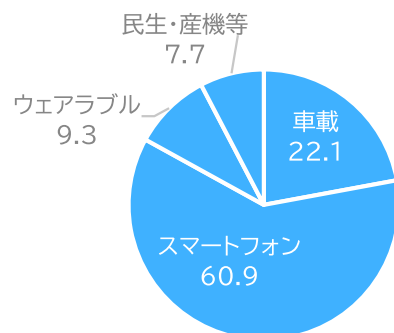
IC・トランジスタ用リードフレーム

売上高 7,287百万円
 構成比 31.7%



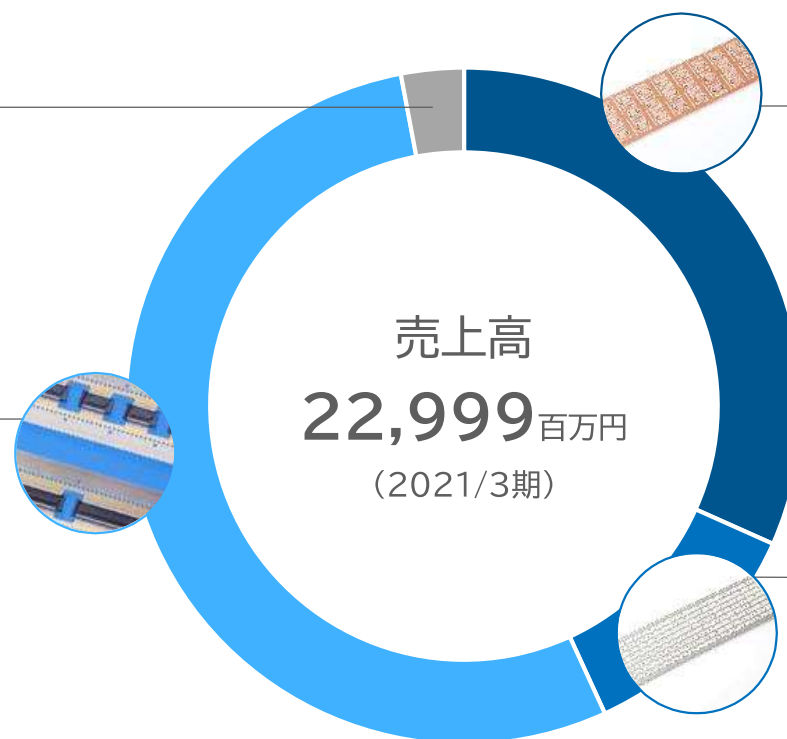
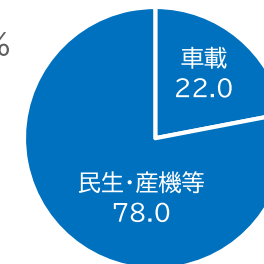
コネクタ部品

売上高 12,384百万円
 構成比 53.8%



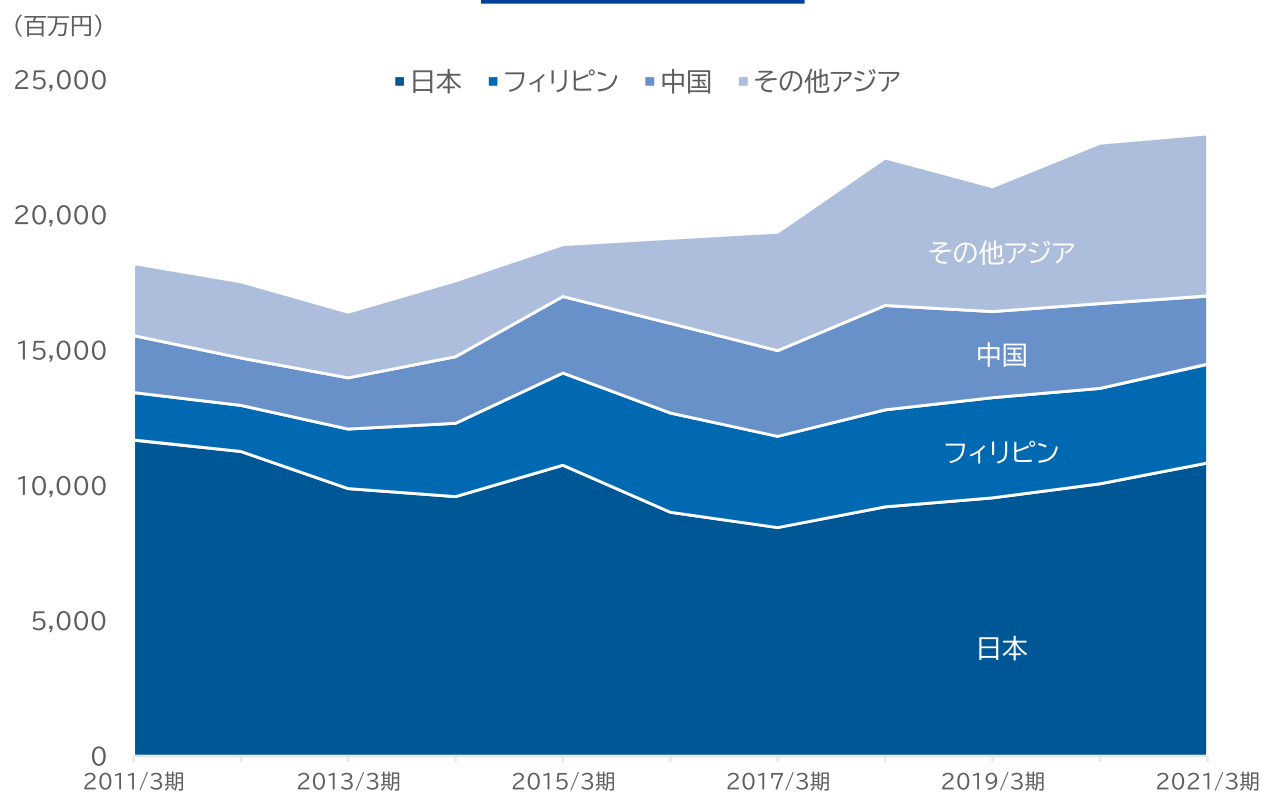
オプト用リードフレーム

売上高 2,639百万円
 構成比 11.5%

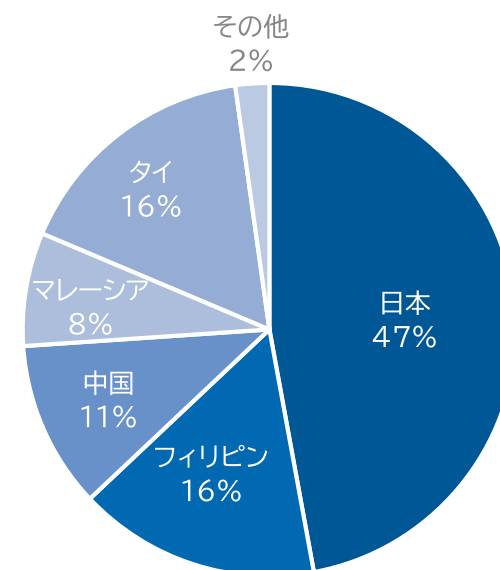


- 地域別売上高は日本が47%、アジアを中心に海外が53%
- 中国・東南アジアでの情報通信端末・自動車の生産拡大に伴い、アジアでの販売が10年間で約2倍に伸長

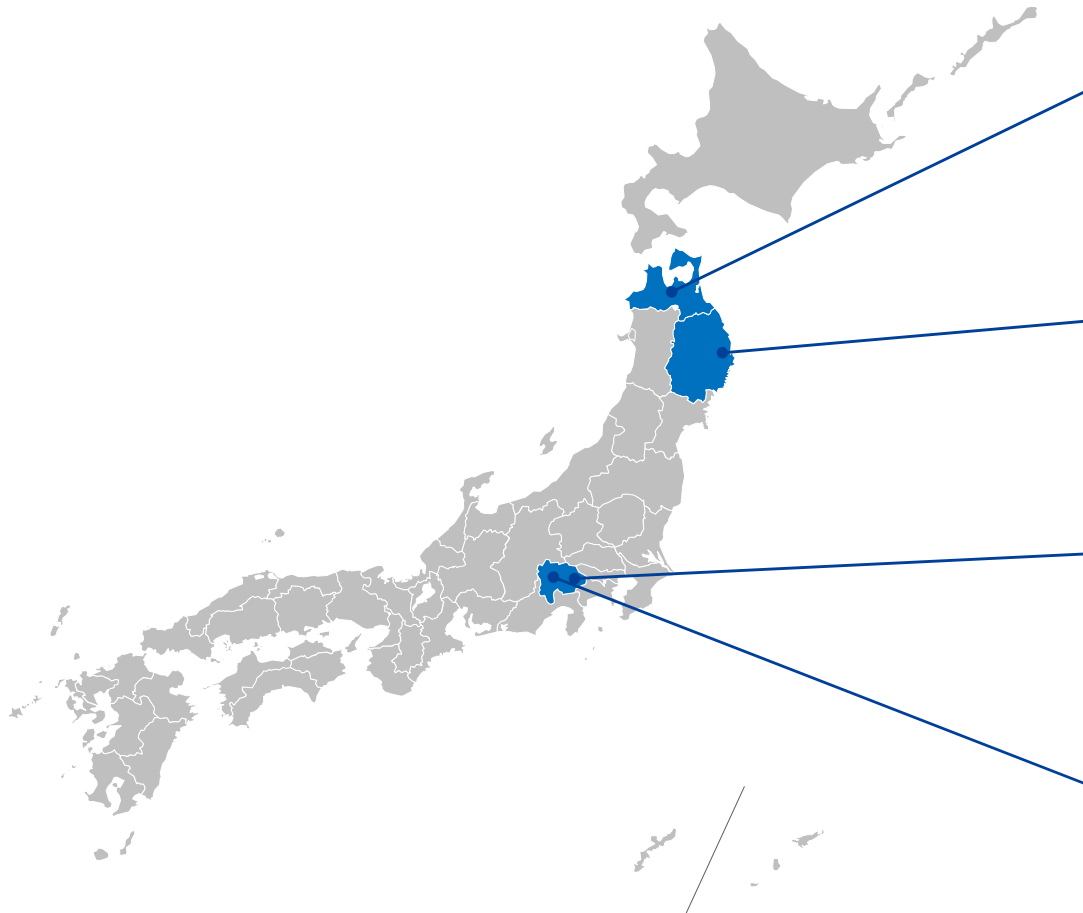
地域別売上高推移



2021年3月期実績



- スマートフォンやウェアラブル端末の需要増加に対応するため、津軽工場を増築し狭ピッチコネクタの生産能力を増強、5年間の投資額は31億円、竣工は2021年11月末予定
- リードフレームはパワー半導体向けなど高電圧・高電流対応品の生産体制を強化



津軽工場

主要生産品目

スマートフォン・ウェアラブル端末向けコネクタ



岩手工場

主要生産品目

車載向け受動部品

スマートフォン向けコネクタ



本社工場(上野原)

主要生産品目

オプト用リードフレーム

リレー部品



本社工場(塩山)

主要生産品目

IC・トランジスタ向けリードフレーム

オプト用リードフレーム

- 中山工場(中国)では、リードフレームやコネクタ部品を、金型製作からプレス加工・メッキ・樹脂成形・コネクタの組み立てまで一貫生産、海外企業や日系中国拠点向けに販売
- フィリピン工場では、主にコネクタ部品を、金型製作からプレス加工・メッキ・樹脂成形まで一貫生産、主に日系の東南アジア拠点向けに販売

中国



営業拠点 **ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd**
生産拠点 **ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.**
主要生産品目 IC・トランジスタ用リードフレーム
スマートフォン向けコネクタ部品

フィリピン

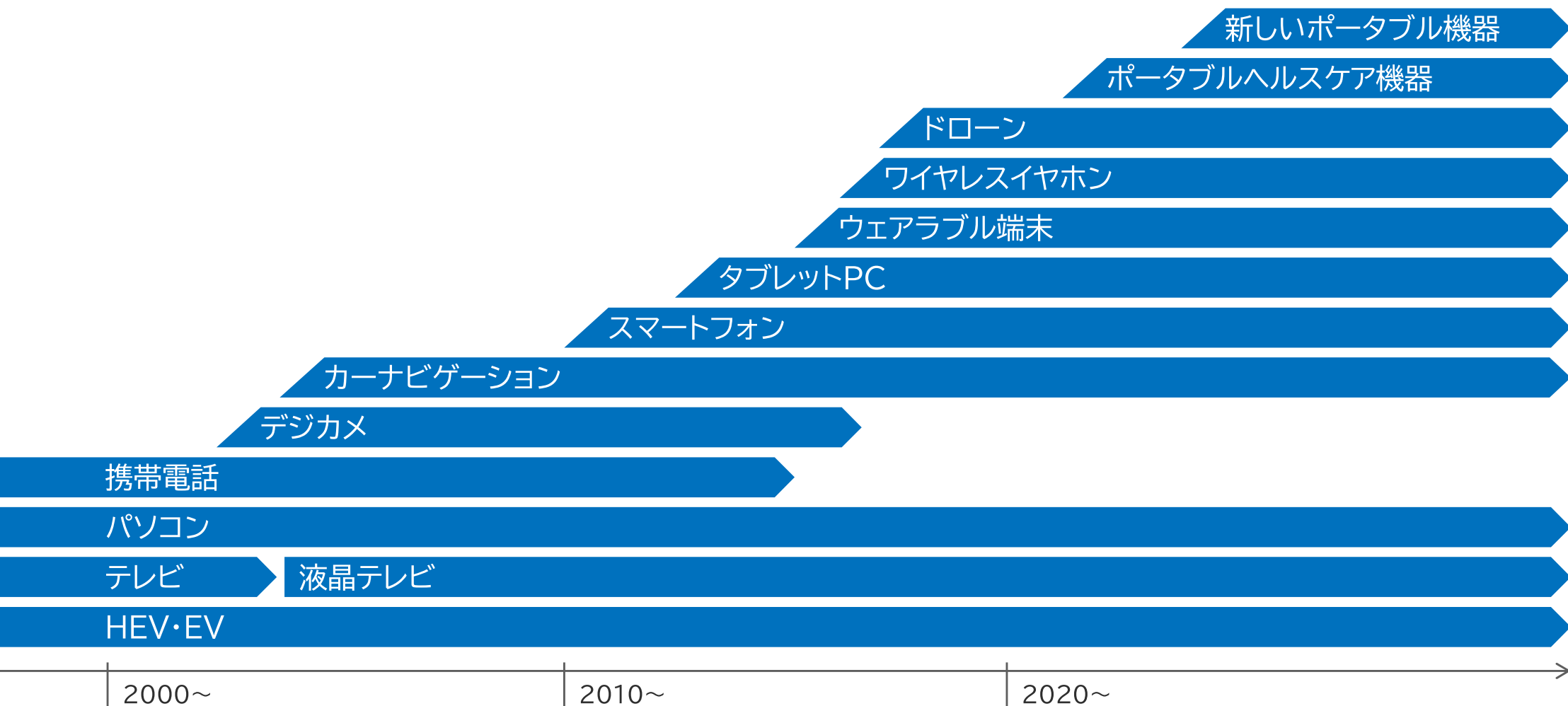


生産拠点 **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
主要生産品目 エアバッグ向け大型コネクタ部品
車載向けスイッチ部品
IC・トランジスタ用リードフレーム

2.市場環境

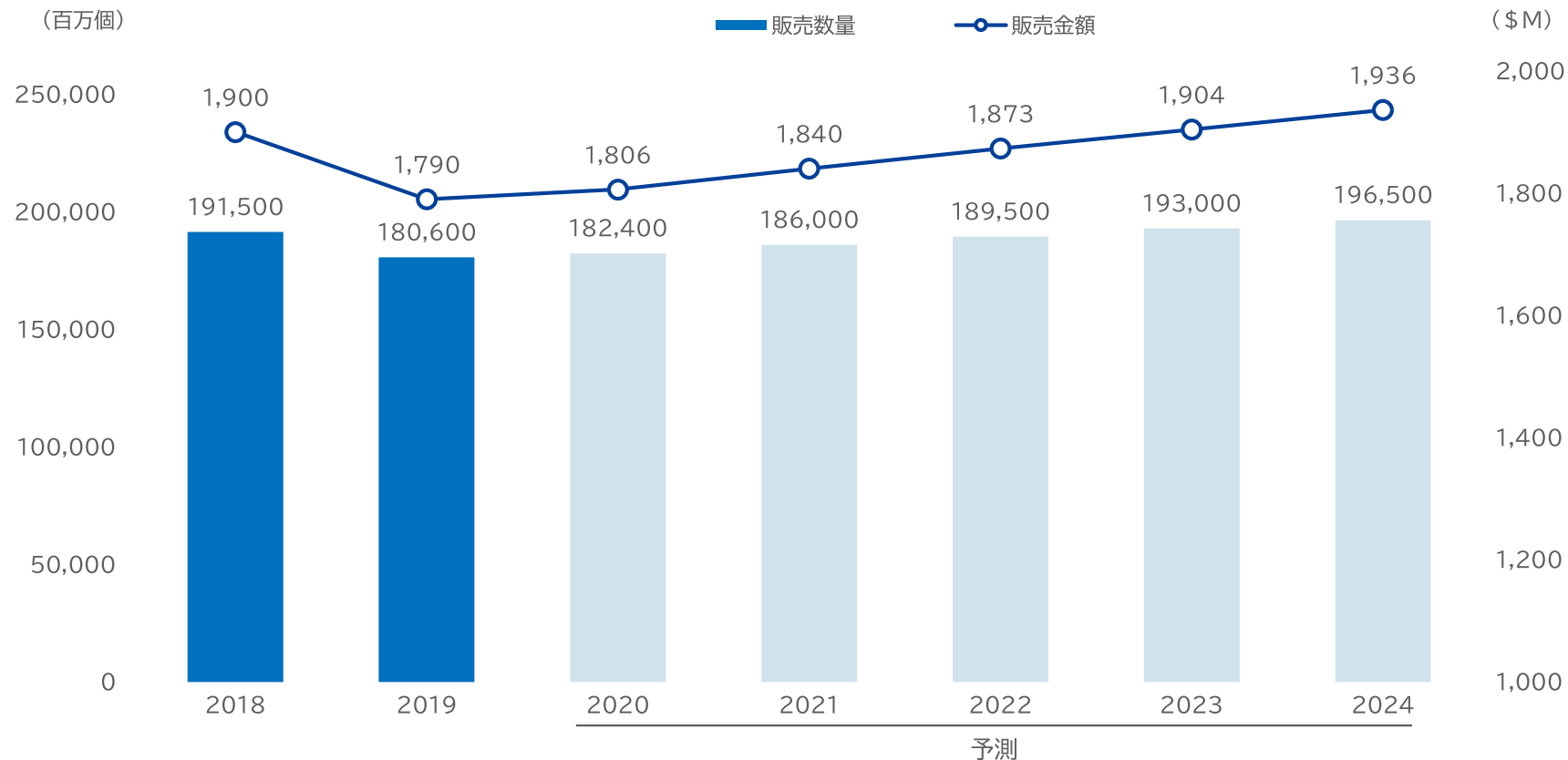


- 商品のワイヤレス化などにより、微細加工部品が使われる新しい製品が現れ、市場は拡大
- 2020年以降もポータブルヘルスケア製品など新しいポータブル製品の発売が期待される



- パワー半導体などディスクリートの伸長に伴い、リードフレーム市場の成長は続く
- ワイヤレスボンディング方式のリードフレームが増加
- 半導体用リードフレームのグローバルシェアは約5%で世界第9位

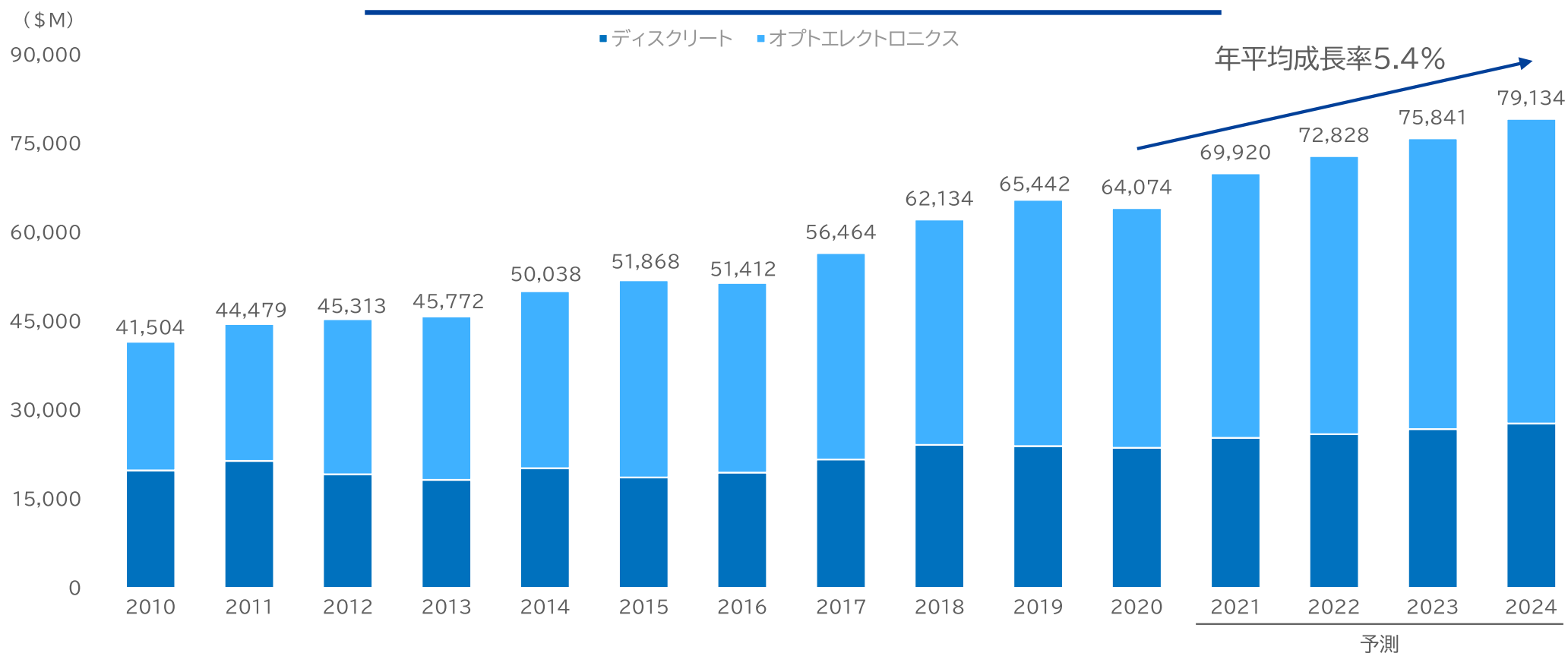
半導体用リードフレームの世界市場規模推移



出所:富士経済「2020年 半導体材料市場の現状と将来展望」

- ・ ディスクリートとオプトエレクトロニクス市場は成長が見込まれる
- ・ パワー半導体などがEVや5G基地局、データセンター等に今後も大きく成長

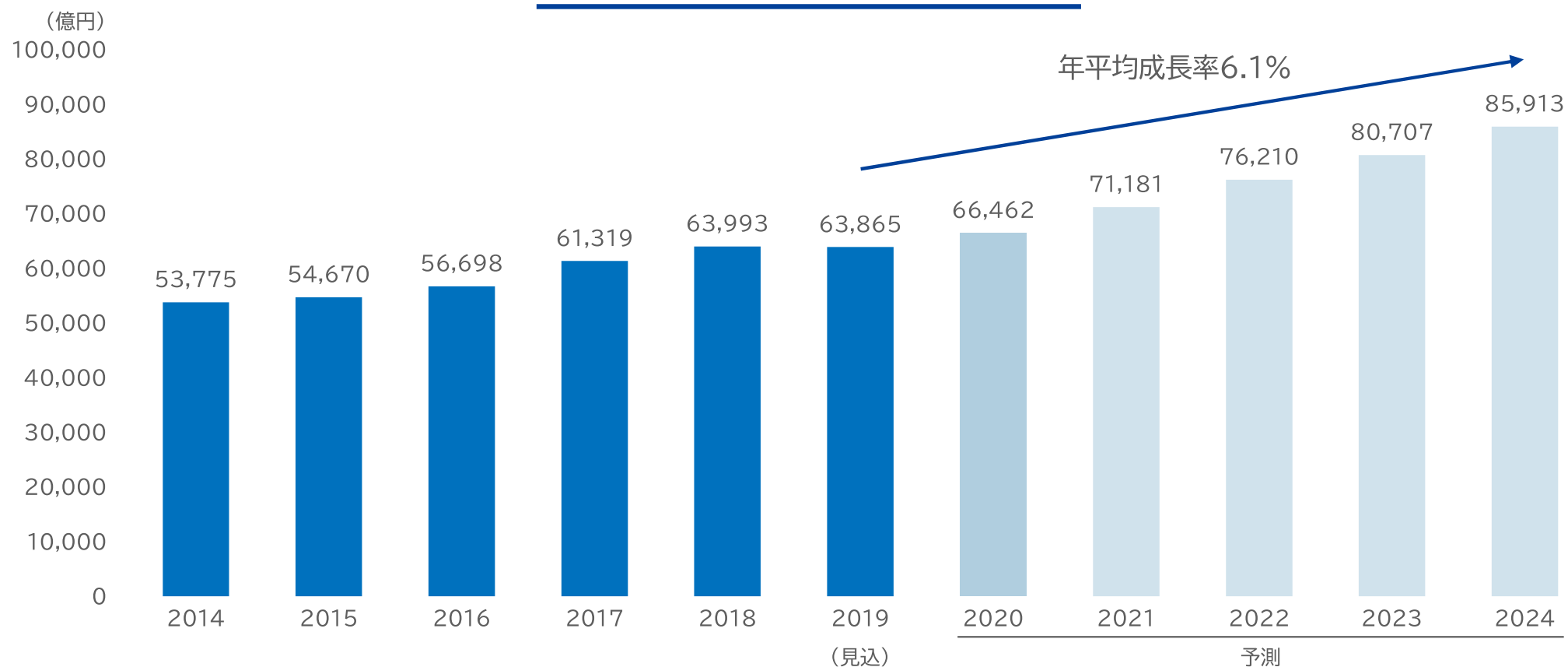
世界のディスクリート半導体とオプトエレクトロニクス市場の推移



出所: WSTS「世界半導体市場統計」とOmdiaのデータをもとに当社作成

- 世界のコネクタ市場は拡大基調が続いている
- 2020年以降は車載向けの部品搭載数の増加や、スマートフォンの高機能化やウェアラブル等デバイスのワイヤレス化が市場を牽引

コネクタ世界市場規模の推移と需要予測

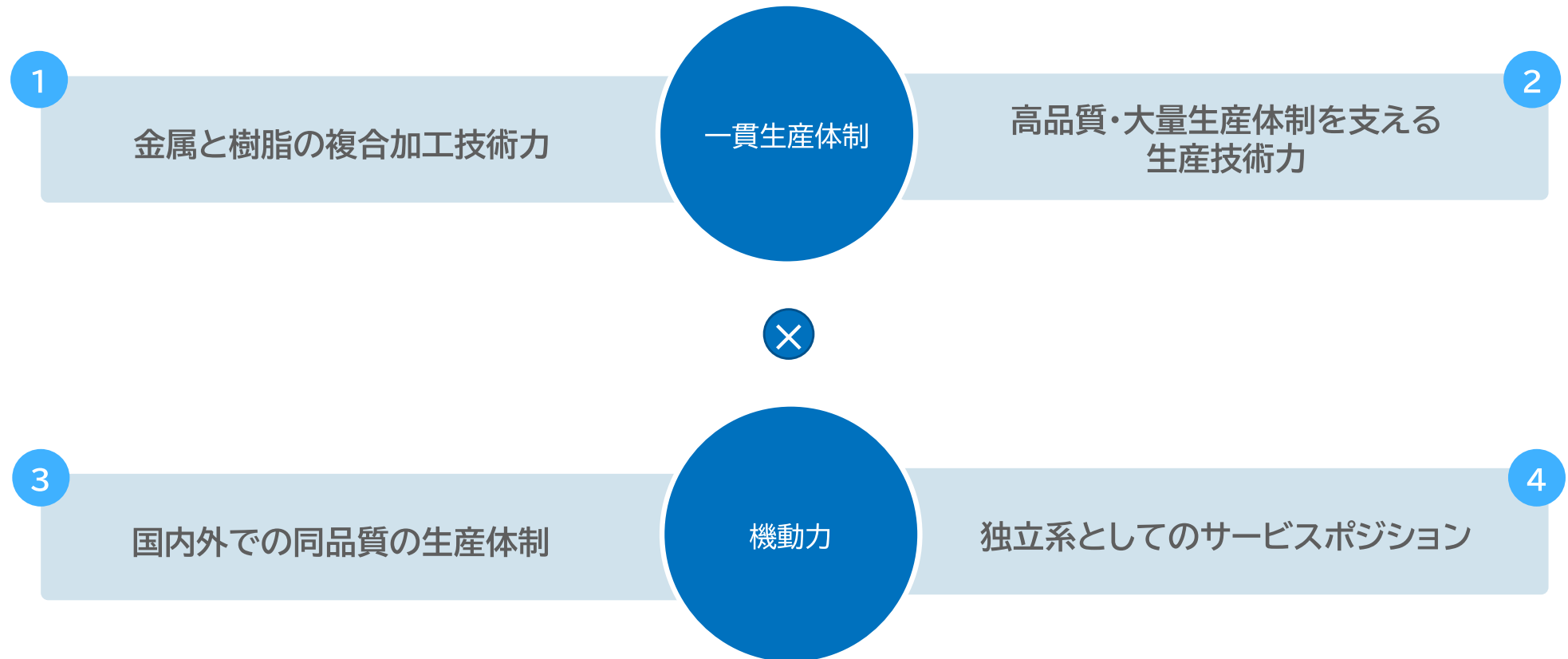


出所:産業情報調査会「2019年版 コネクタ市場」

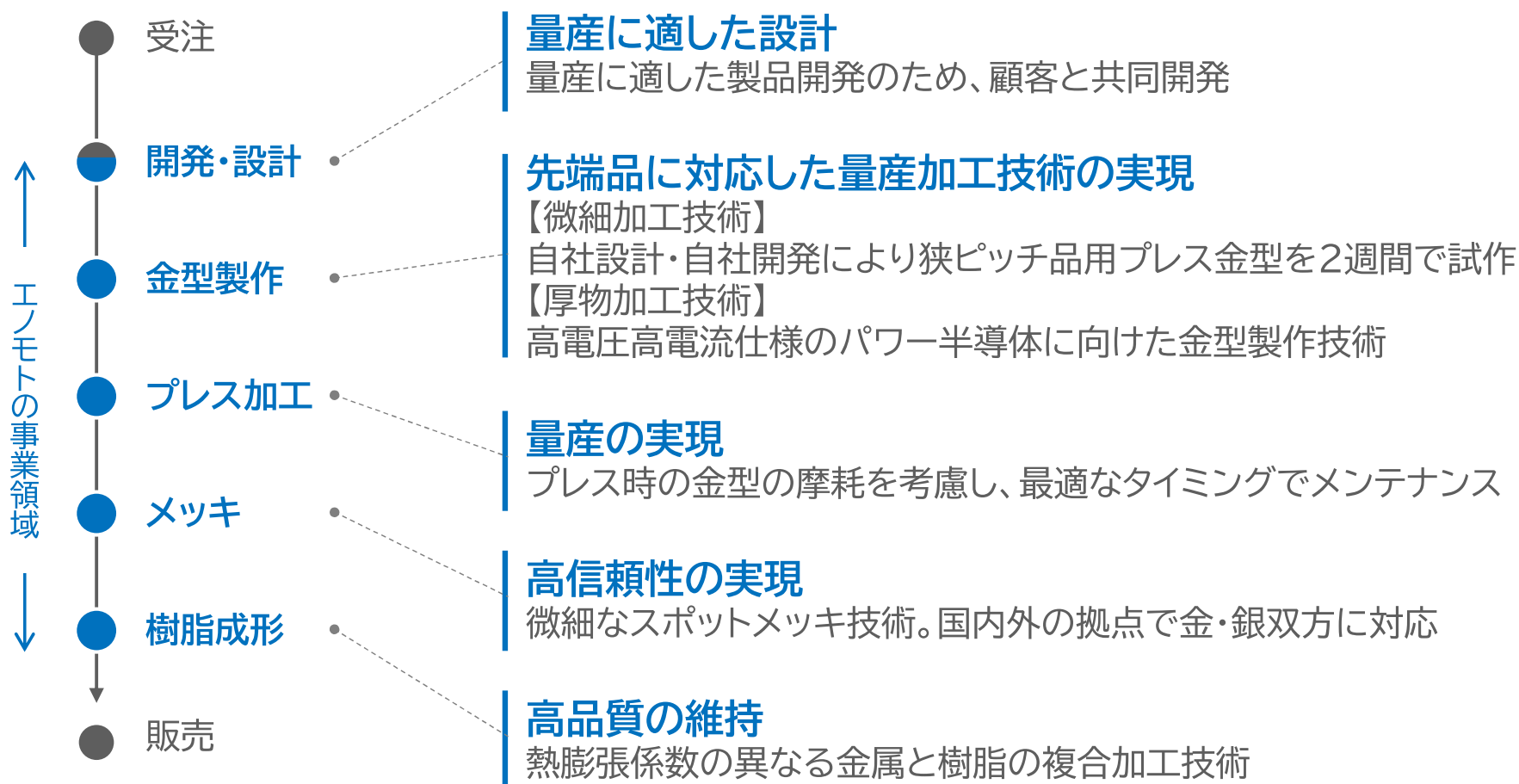
3. 特長・強み



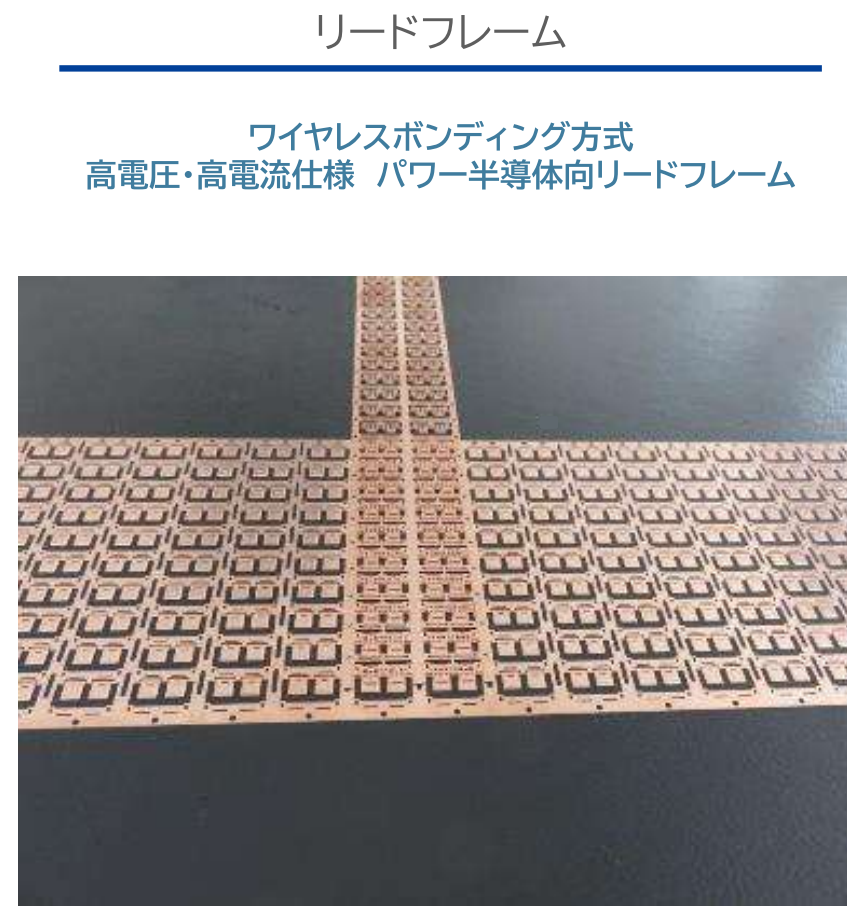
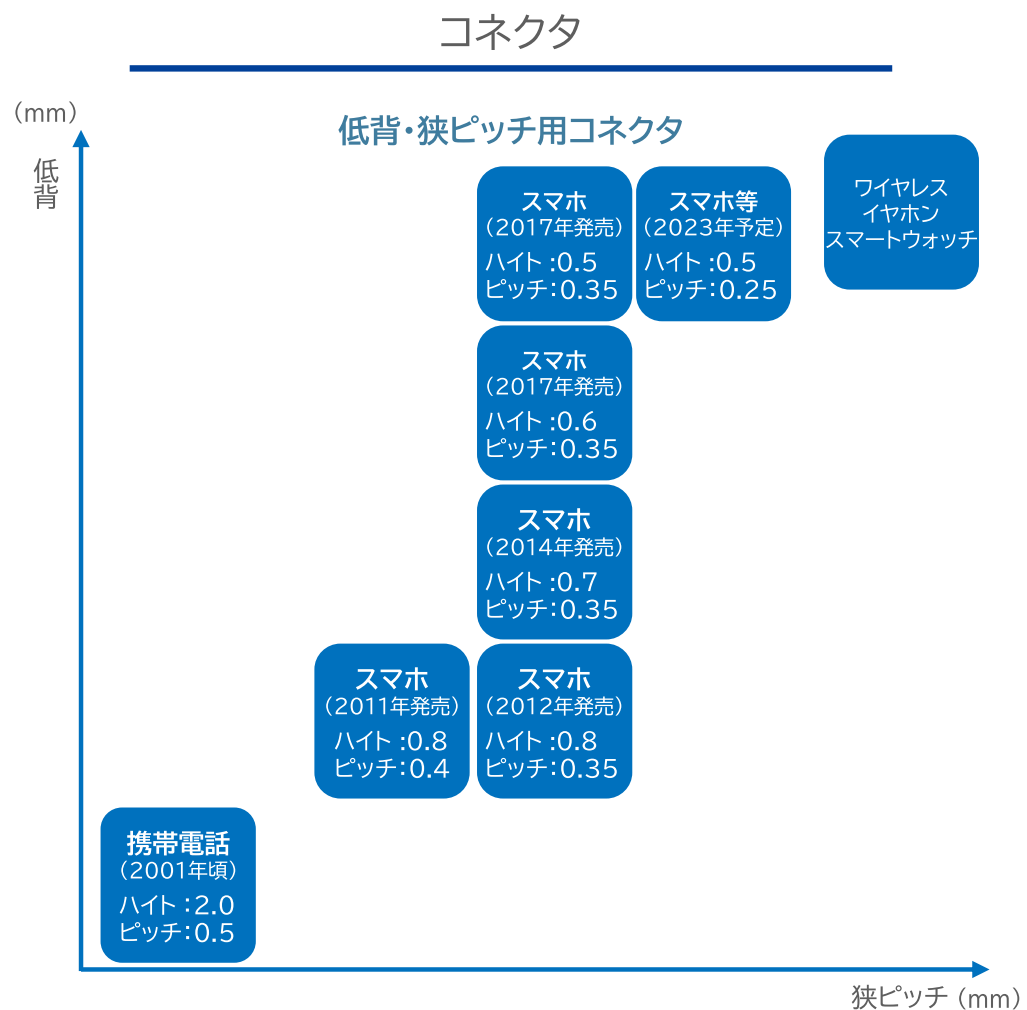
- 当社の強みは、金属と樹脂の複合加工技術と大量生産を可能とする生産技術力
- 「高い品質を維持した大量生産」を「受託生産型×独立系」としてのサービスポジションで機動的に国内外で展開



- ・ 強みである金型の設計・開発、プレス加工の技術を活かし、生産に特化
- ・ スマートフォン向けなどの狭ピッチコネクタ、パワー半導体用リードフレームの精密加工に強み
- ・ 狭ピッチコネクタ、パワー半導体用リードフレームを大量生産できる企業は限られ、当社への受注が増加

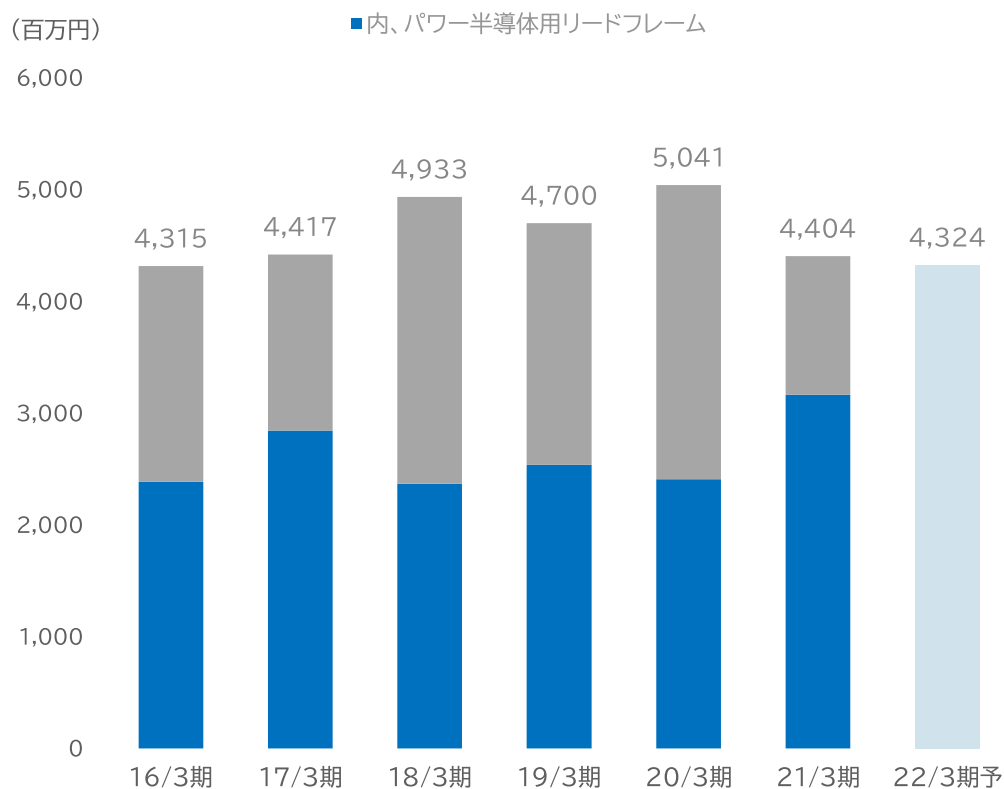


- 低背・狭ピッチコネクタ、パワー半導体用リードフレームを大量生産
- 高い精度を出すための金型製作、量産に耐える最適なタイミングでの金型メンテナンス技術に強み

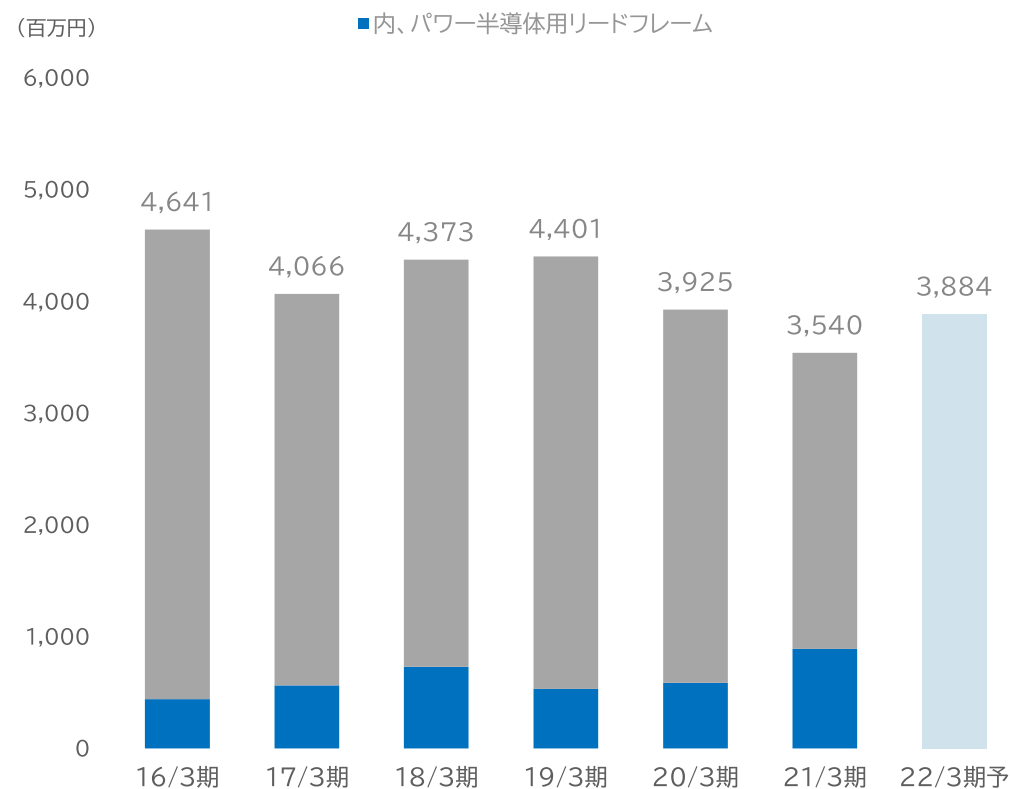


- 日系機器メーカーの工場移転、海外企業の台頭に対応し、中国・フィリピンでも一貫生産
- 金型製作からプレス加工・メッキ・樹脂成形までの一貫生産を行っている数少ない日系企業
- 微細で高品質な製品を海外工場で量産できることから、売上高は増加

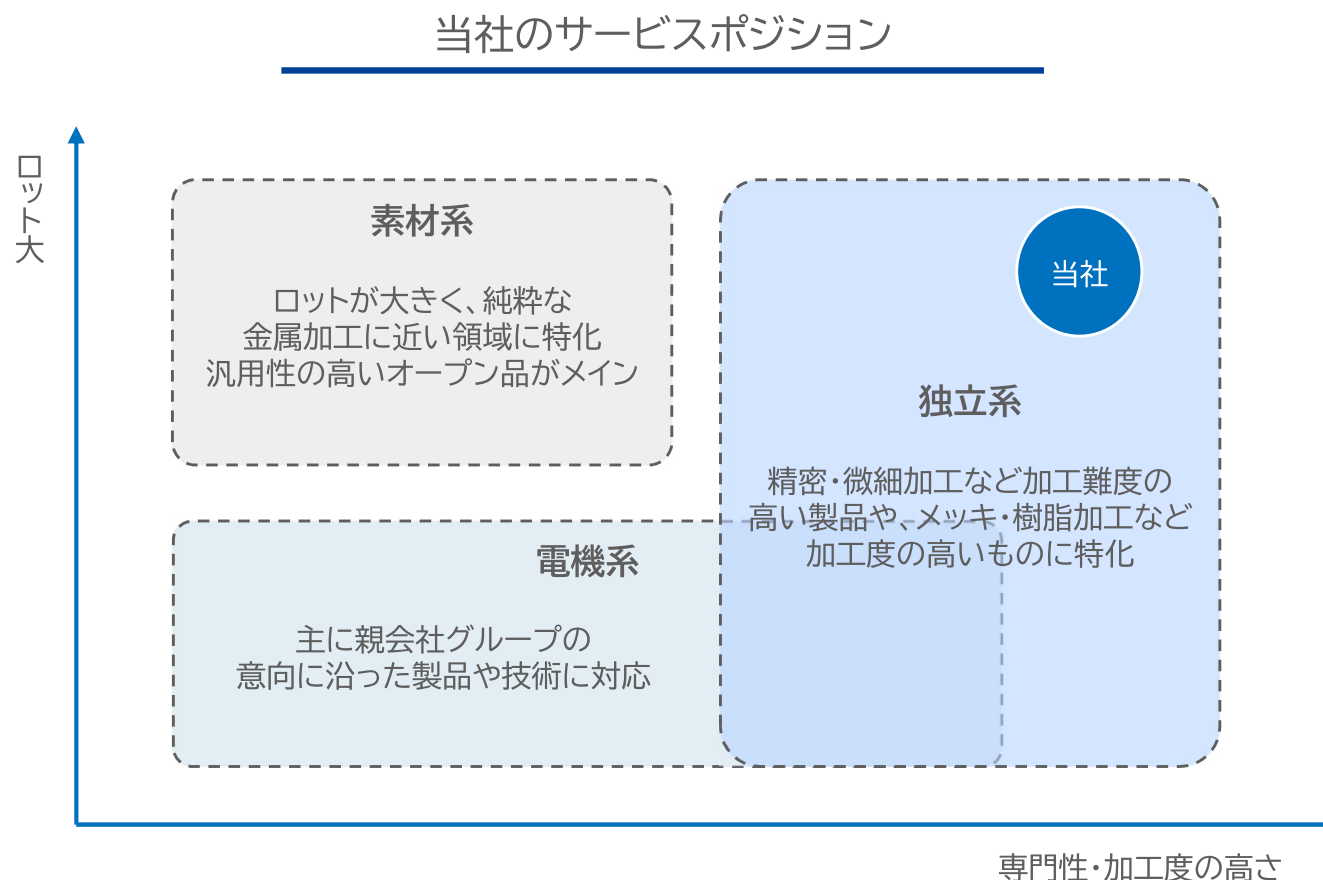
中国子会社の売上高推移



フィリピン子会社の売上高推移



- 部品メーカーは素材系、電機系、独立系に分類でき、それぞれサービスポジションが異なる
- 独立系である当社は、顧客が求める製品・技術に柔軟に対応でき、微細な部品を大ロットで生産



4.2021年3月期決算



- 付加価値の高い製品の取り込みが売上増、利益増に寄与し、加えて原価低減による売上総利益の改善で増収増益を達成
- 繰延税金資産を追加計上したことから法人税調整額が減少し、当期純利益は63%増益

	2020/3期		2021/3期		期比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	実績 (百万円)	売上比 (%)	前年比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	22,647	100.0	22,999	100.0	+1.6	-
売上総利益	3,593	15.9	3,815	16.6	+6.2	+0.7
販管費	2,234	9.9	2,252	9.8	+0.8	△0.1
営業利益	1,358	6.0	1,563	6.8	+15.1	+0.8
為替差損	△34	-	△43	-	△26.5	-
経常利益	1,394	6.2	1,561	6.8	+12.0	+0.6
当期純利益	912	4.0	1,489	6.5	+63.2	+2.5
1株当たり純利益	135.87円	-	221.66円	-	+63.1	-

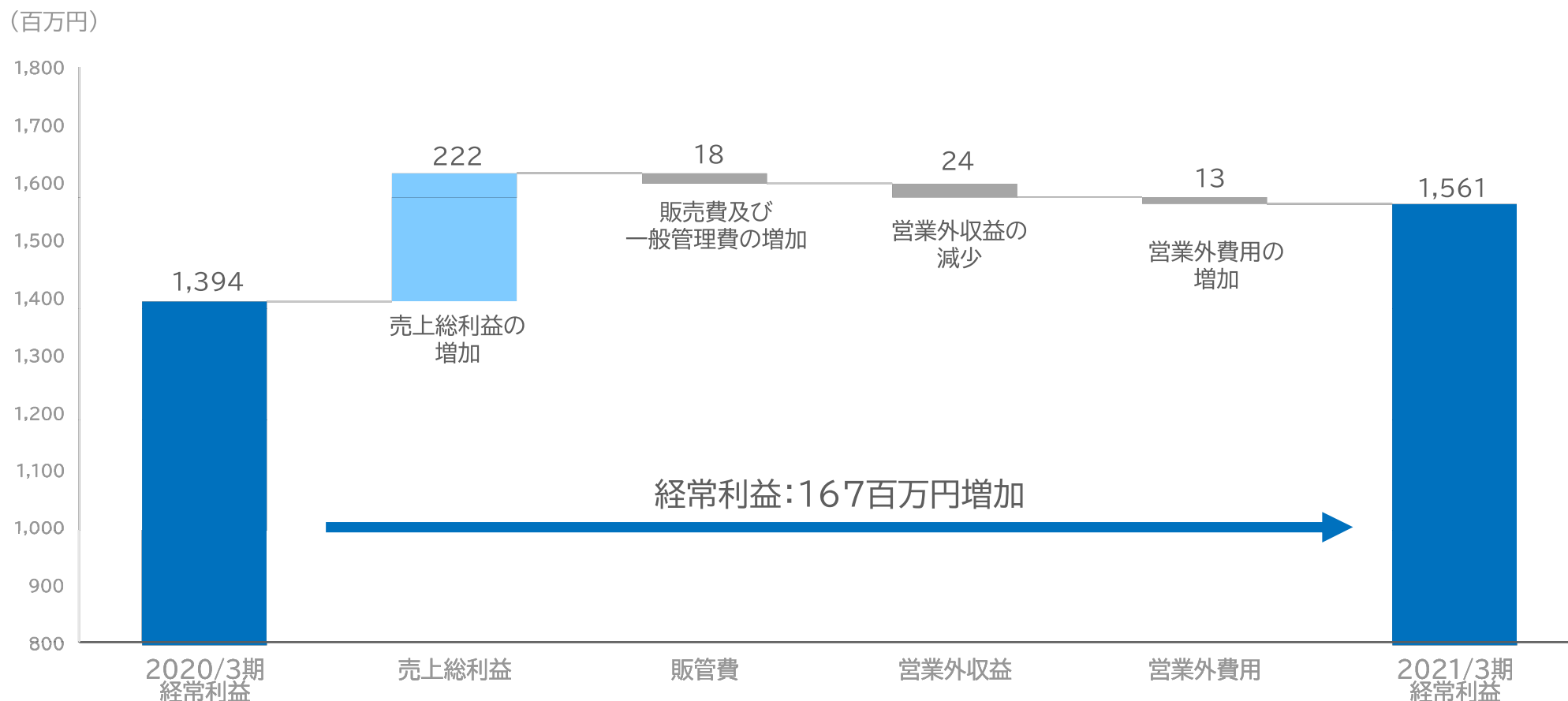
- 上期はコロナ禍による自動車生産台数減少の影響等を受け、売上・利益とも停滞
- 3Q以降は自動車生産の回復や、スマートフォン・ウェアラブル端末の好調により、増収増益に

単位:百万円	2020/3期				2021/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	5,531	5,570	5,718	5,826	5,113	5,351	6,296	6,238
売上総利益	837	743	1,020	991	807	737	1,227	1,043
販管費	530	543	533	627	563	533	566	588
営業利益	306	200	487	364	243	204	660	454
為替差損益	△24	0	+5	△15	△5	△10	△33	+6
経常利益	293	208	522	370	253	206	651	450
当期純利益	212	146	375	178	171	160	600	557

- ・ IC・トランジスタ用リードフレームは、自動車向けが上期停滞したものの、下期以降は海外での需要が強く急速に回復
- ・ オプト用リードフレームは、自動車向け、大型ディスプレイ向けが3Qまで停滞したものの4Qは回復
- ・ コネクタ用部品は、スマートフォン・ウェアラブル向けが伸長。4Qも季節調整が緩やかであり、堅調に推移

単位:百万円	2020/3期					2021/3期					
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	前年比
IC・トランジスタ用 リードフレーム	1,892	1,868	1,807	1,917	7,485	1,735	1,516	1,911	2,123	7,287	△2.6%
オプト用 リードフレーム	646	693	784	729	2,854	678	615	530	814	2,639	△7.5%
コネクタ用部品	2,813	2,829	2,936	2,974	11,554	2,530	3,054	3,686	3,112	12,384	+7.2%
その他	179	179	189	203	752	168	164	168	187	688	△8.5%
合計	5,531	5,570	5,718	5,826	22,647	5,113	5,351	6,296	6,238	22,999	+1.6%

- ・ 製造工程の自動化・効率化による原価低減で売上総利益率が改善
- ・ 営業外収益は前期計上した一時的な保険金収入により減少
- ・ 営業外費用は一時的な金融費用の発生と、為替差損の増加



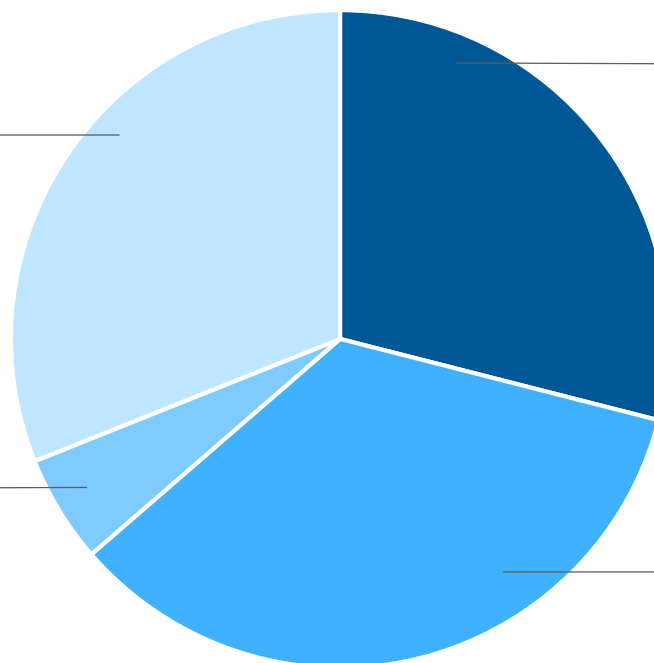
- ウェアラブル端末向けの売上高が前年比70.6%増加し、売上構成比も上昇

民生・産機・その他 31.0%

- 構成比は前期の32.4%から1.4pt低下
- データセンターやサーバーといった情報通信関連需要が中長期的な成長の見込み

ウェアラブル 5.3%

- 構成比は前期の3.2%から2.1pt上昇
- ヘルスケア需要などにより市場は引き続き成長基調



車載 29.0%

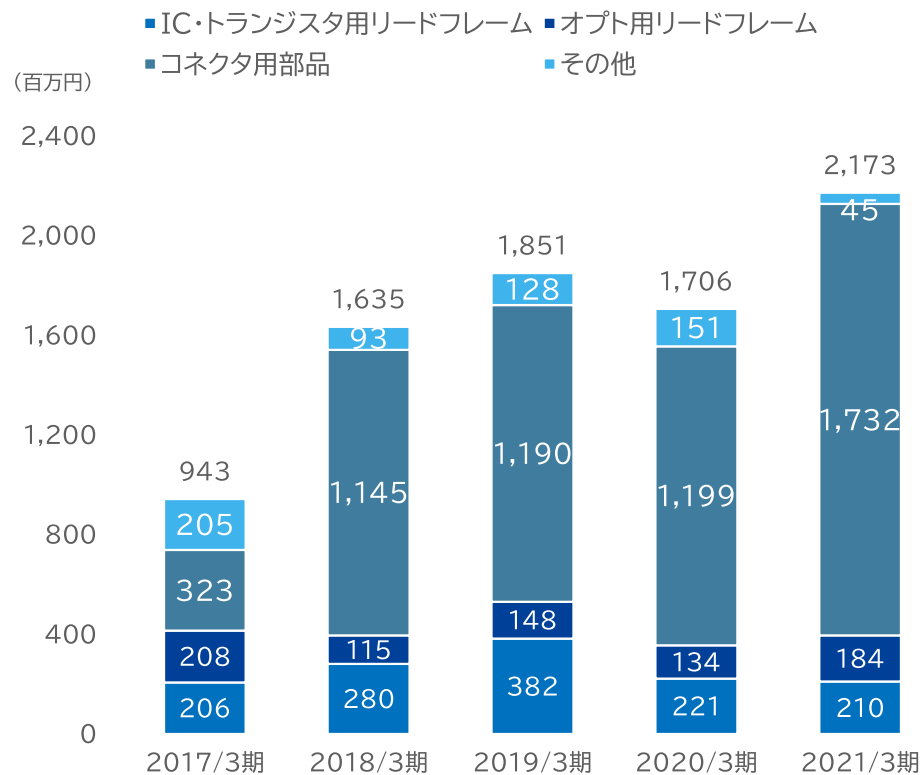
- 構成比は前期の31.0%から2.0pt低下
- 上期は自動車生産台数減少の影響を受け停滞したものの、下期以降は回復基調で推移

スマートフォン 34.7%

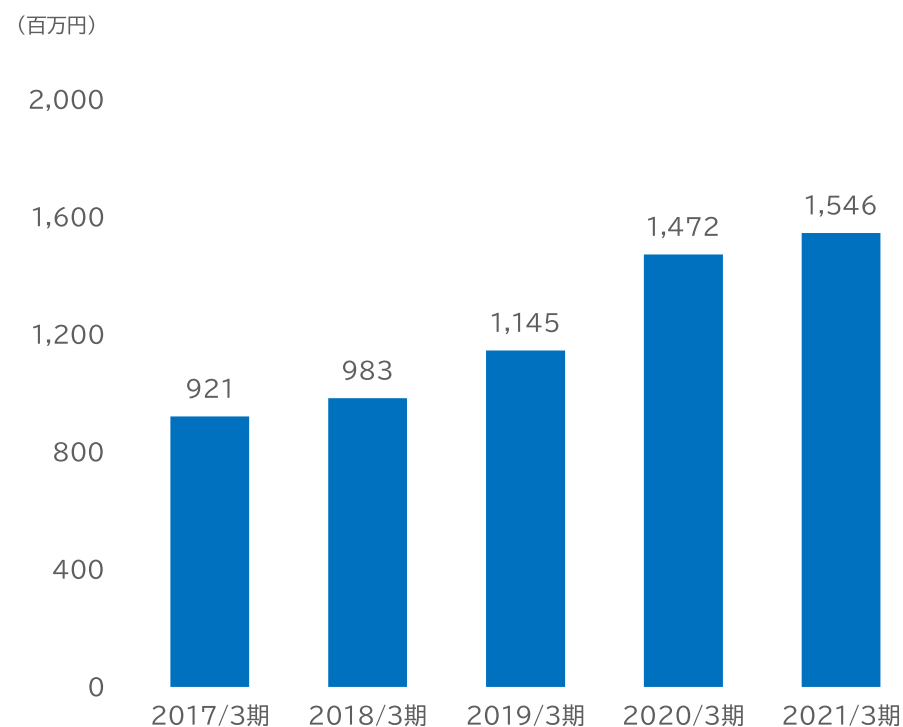
- 構成比は前期の33.5%から1.2pt上昇
- 人の動きの停滞を補完する役割を有するデバイスでもあることから堅調な推移

- コネクタ部品等の生産能力増強のための津軽工場への投資により設備投資が増加
- 津軽工場の新棟の竣工は2021年11月を予定しており、減価償却費はほぼ前期並み

設備投資金額の推移



減価償却費の推移



- 増収により売掛金が増加、さらにコネクタ部品等の増産投資により有形固定資産が増加
- 自己資本比率は前期64.4%から65.5%と、1.1pt上昇

単位:百万円	2020/3期	2021/3期	前年期末差
流動資産	13,303	14,143	+839
（内、現預金）	3,346	3,324	△21
（内、受取手形及び売掛金）	6,680	7,224	+543
固定資産	10,907	11,433	+526
（内、有形固定資産）	9,831	10,222	+391
総資産	24,211	25,577	+1,366
負債	8,600	8,838	+237
（内、有利子負債）	1,001	1,198	+196
純資産	15,610	16,739	+1,129
負債純資産	24,211	25,577	+1,366

- 増益により、営業キャッシュフロー2,506百万円となった
- 津軽工場の増築に伴う支出が約6億発生したことから、投資キャッシュフローは△2,402百万円となったがフリーキャッシュフローはプラスを維持

単位:百万円	2020/3期	2021/3期	前年期末差
営業活動によるキャッシュフロー	2,357	2,506	+148
税引前当期純利益	1,160	1,457	+297
減価償却費	1,472	1,546	+74
棚卸資産の増加	547	△360	△907
投資活動によるキャッシュフロー	△1,501	△2,402	△900
有形固定資産の取得による支出	△1,471	△2,471	△1,000
財務活動によるキャッシュフロー	△333	△113	+219
長期借入れによる収入	500	500	±0
長期借入金の返済による支出	△156	△124	+32
配当金の支払い額	△238	△238	±0
現金及び現金同等物の期末残高	3,346	3,324	△21
フリーキャッシュフロー	856	103	△752

5.中期経営計画 (2022年3月期～2024年3月期)





社是

心技一体

経営理念

経営の中心は人であり、健全なものづくりを通じて、豊かな社会の実現に貢献する。

ビジョン2030

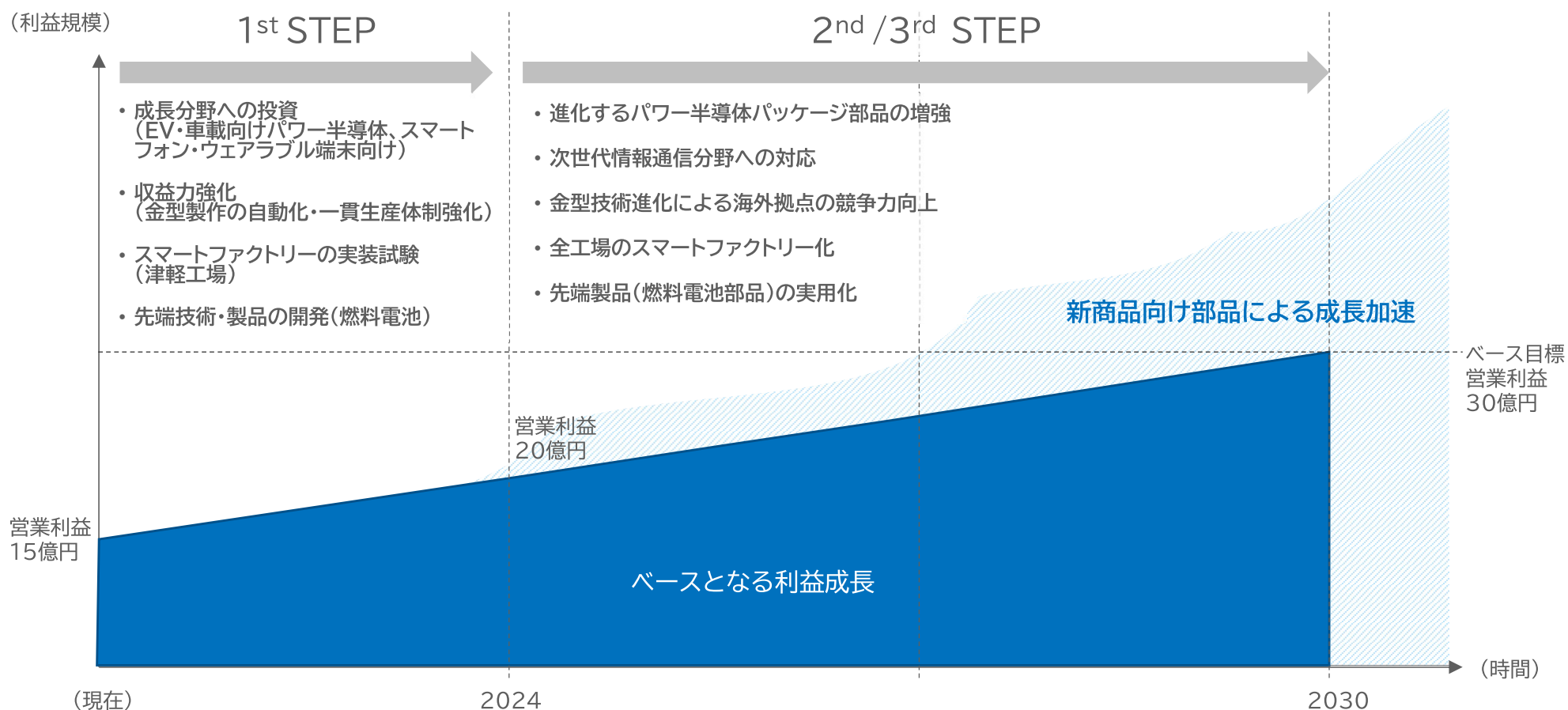
「金型の技術で未来を創る」

より小さく より速く 最先端の技術で
暮らしとビジネスのベストパートナーを目指す

ありたい姿

- 金型技術の進化で、最先端の市場に高品質な部品をスピーディに提供し続ける
- 失敗を恐れずチャレンジする職場環境づくりを通じてイノベーションを生み出す
- 燃料電池部品の実用化で脱炭素社会の実現に貢献する

- ビジョン2030では、既存製品の需要拡大を見据えつつ、付加価値率の向上を軸とした各種施策で主力製品のマーケットの成長を上回る利益成長を図る
- 長期的には、先端製品の需要急拡大への対応や、先端分野の研究開発を継続し、一貫生産体制の強みを活かして、次世代情報通信分野等で成長



- ウェアラブル端末等向けコネクタ、パワー半導体向けリードフレーム増産による増収
- 増収効果に加えて、自動化等により付加価値率(限界利益率)向上で、増益を計画

1st STEP 目標数値

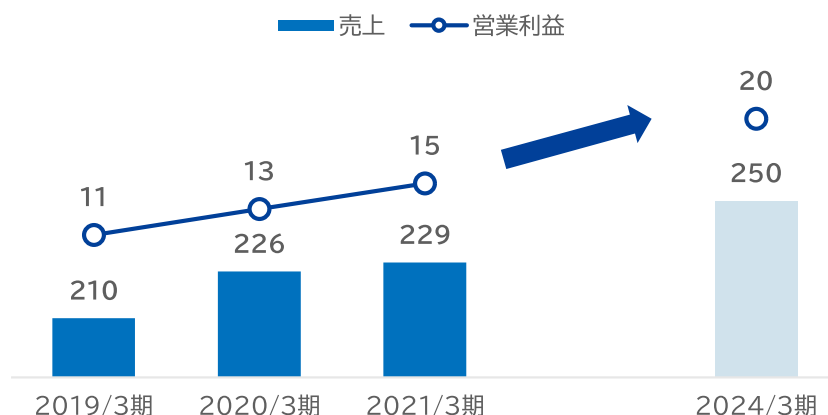


増収施策:成長分野への投資

情報通信分野(ウェアラブル端末等)
⇒ 津軽工場生産能力増強

EV・自動運転分野への注力
⇒ フィリピン工場での受注強化

売上高・営業利益



限界利益引き上げ施策

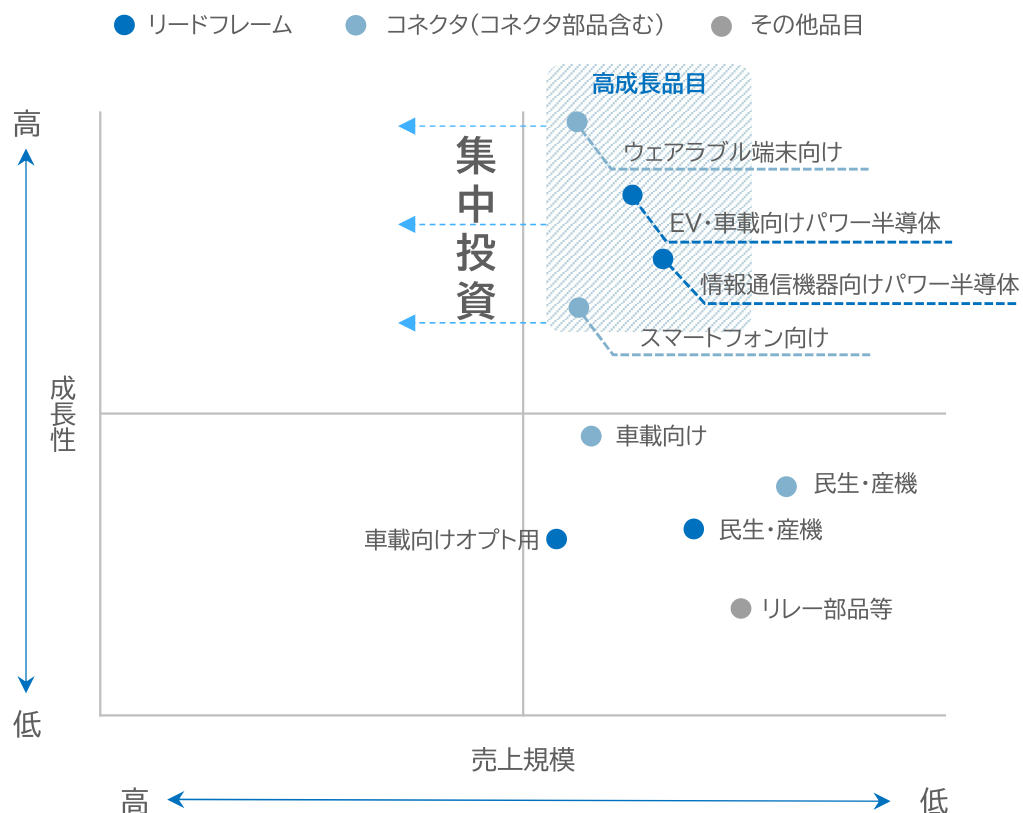
量産工程の自動化

金型製作のデジタル化

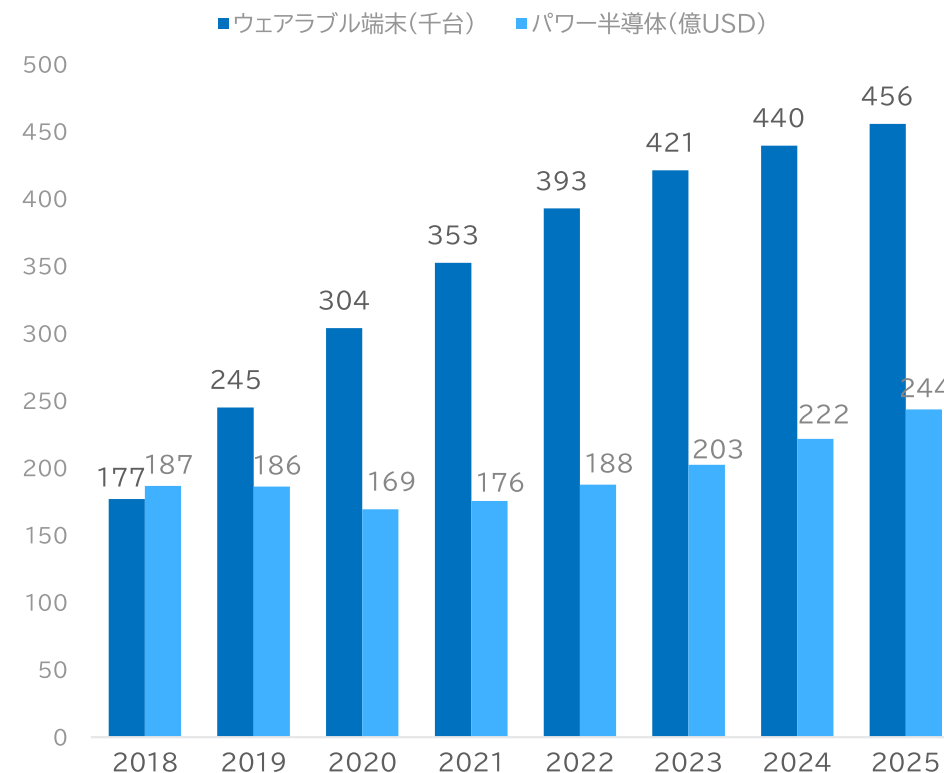
海外拠点の強化

- ウェアラブル端末向けなどの狭ピッチコネクタやパワー半導体向けリードフレームなど、当社の超精密・大量生産技術が活かせる分野に集中投資

取扱い品目の成長性



成長分野の世界市場予測

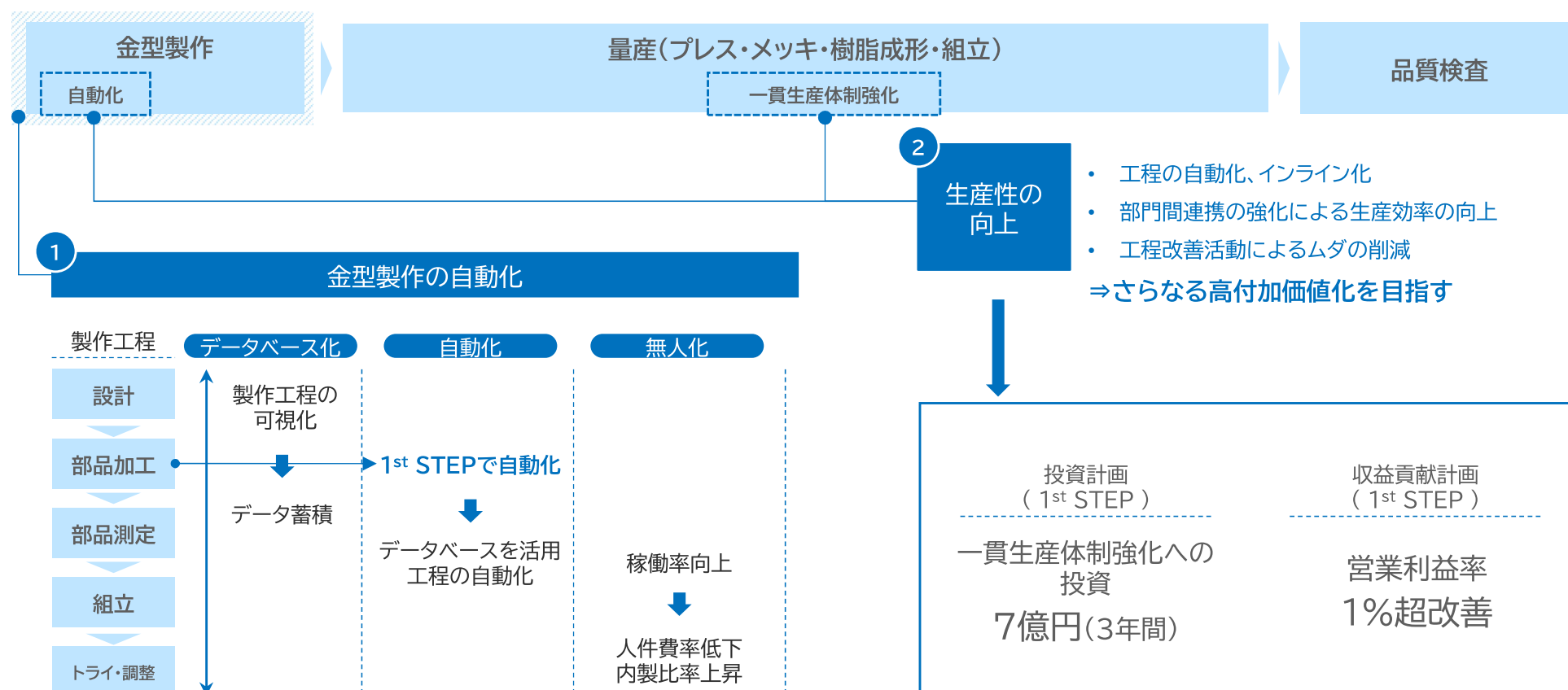


ウェアラブル端末はスマートスピーカー・スマートウォッチ・ヘルスケアバンドの合算

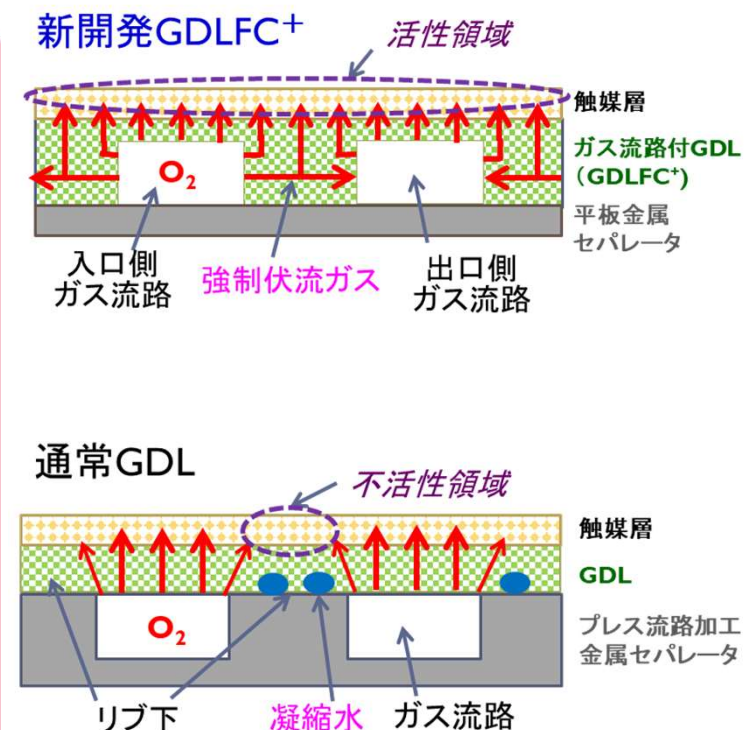
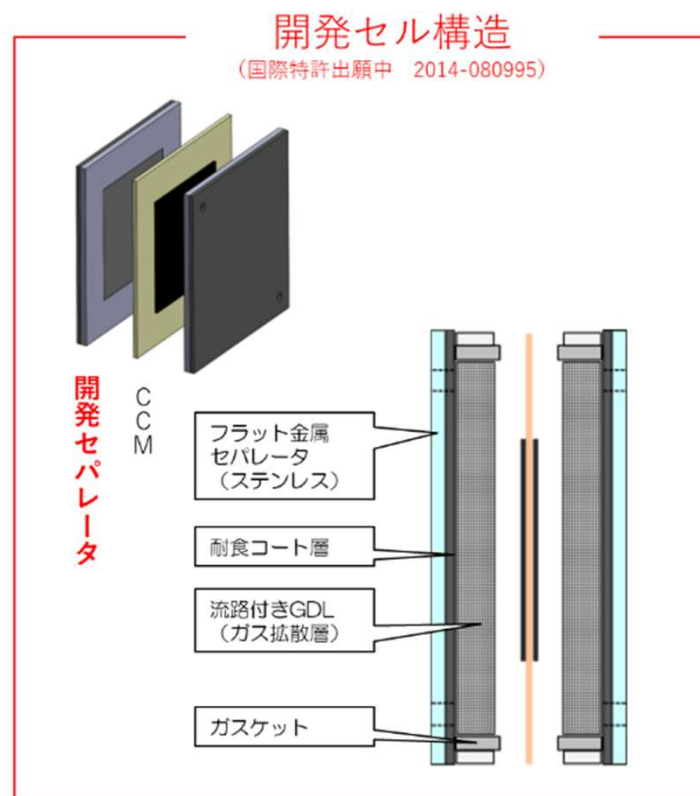
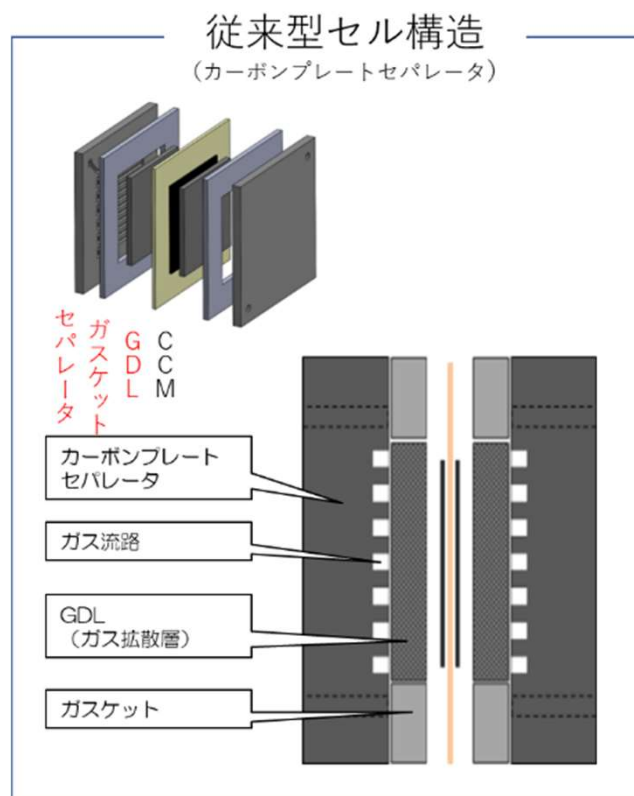
出所: ウェアラブル端末は富士キメラ総研「2020年 ワールドワイドエレクトロニクス市場総調査」
 パワー半導体は矢野経済研究所「2020 進展するパワー半導体の最新動向と将来展望」

- 主力製品の核となる金型製作は、熟練の技術者育成に長期間かかることに加え、加工工数も多い。自動化を推進し低コスト化を実現するだけでなく、将来的に加工データを活用した技術伝承も見据える
- 更なる一貫生産体制の強化により、短中期的な収益性改善を計画するとともに、将来的な価格競争力の維持や最新の顧客需要に応える提案活動が可能となり、主力製品の付加価値向上を図っていく

リードフレーム・コネクタの製造工程と競争力向上施策



- 固体高分子型燃料電池(PEFC)向けガス拡散層(GDL)一体型金属セパレータを山梨大学と共同開発
- 新開発の流路付きGDL(GDLFC+)で大幅な高電流密度化を実現、当社技術により汎用樹脂にガス流路を成形
- 金属セパレータ、GDLを自社生産し、ガスソケットと一体化し、コストを削減
- 2025年に燃料電池車向けのテスト開始、将来は電気自動車、ドローン、緊急電源、エネファーム等での実現を図る



- ・メインターゲットはFCV – 2030年FCV市場規模4兆7,520億円(富士経済予測)
- ・2021年3月時において特許6件(国際:4件、国内:2件)出願中
- ・量産に向け2015年比約1/10コストへの削減を目指す



- ・改良型燃料電池の製造・研究開発・実用化による、安価かつ環境に配慮したエネルギーの普及
- ・山梨県、山梨大学等と共に、産官学連携による燃料電池の研究開発の推進
- ・政府（文科省）も本燃料電池の研究開発を支援

- 設備投資は3年間で60億円～70億円(津軽工場拡張等)
- 研究開発費は3年間で3～5億円(燃料電池セパレータ)

設備投資と減価償却費及び研究開発費

設備投資額
(3年間累計) 60億円～70億円

減価償却費
(3年間累計) 50億円～55億円

研究開発費
(3年間累計) 3億円～5億円

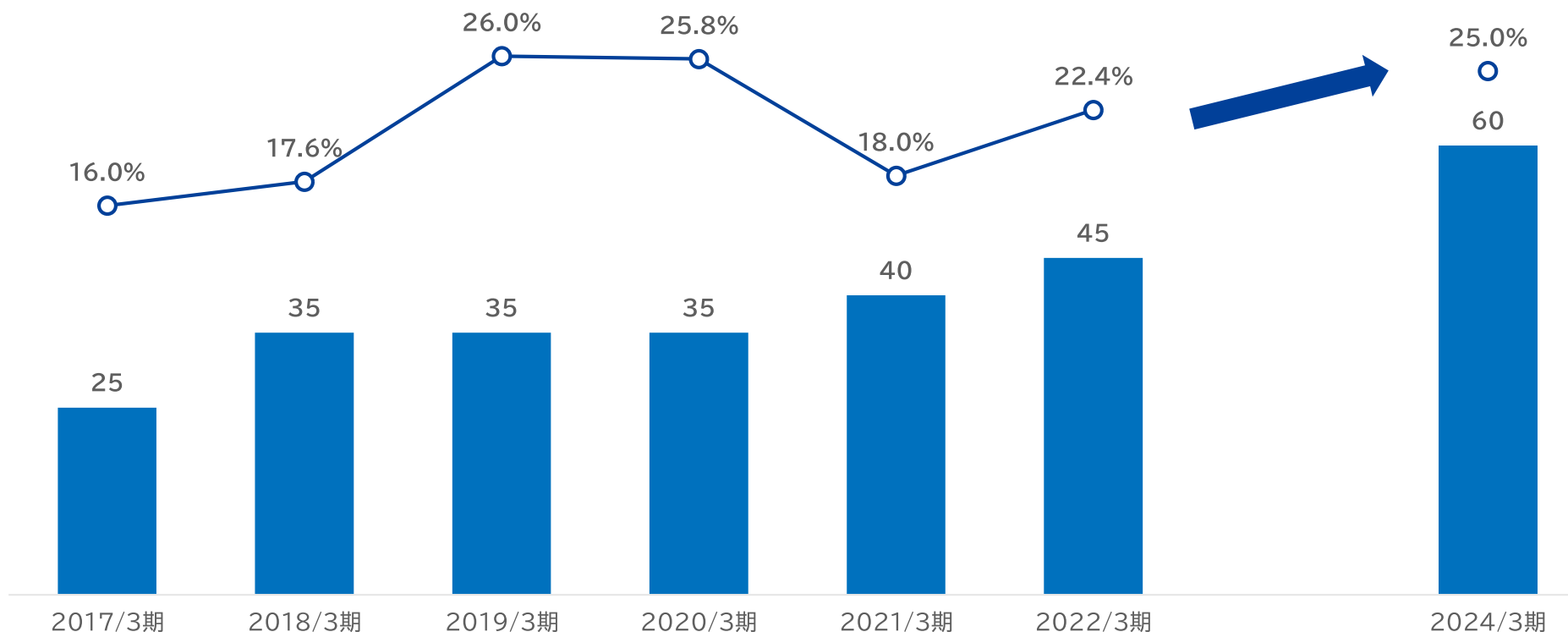
主要設備投資






- 津軽工場増築 31億円
スマートフォン・ウェアラブル端末向けコネクタの増産
- ワイヤレスボンディング仕様の
パワー半導体用リードフレームの増産 10億
- スマートファクトリー向け
デジタル投資 5億円

- ビジョン2030 1st STEPでは、津軽工場への投資等もあり、配当性向25%を目途に安定配当を継続
- 2nd STEP以降は投資状況も勘案しつつ、配当性向の引き上げも検討

配当金・配当性向の推移

■ 年間配当金(円) ● 配当性向

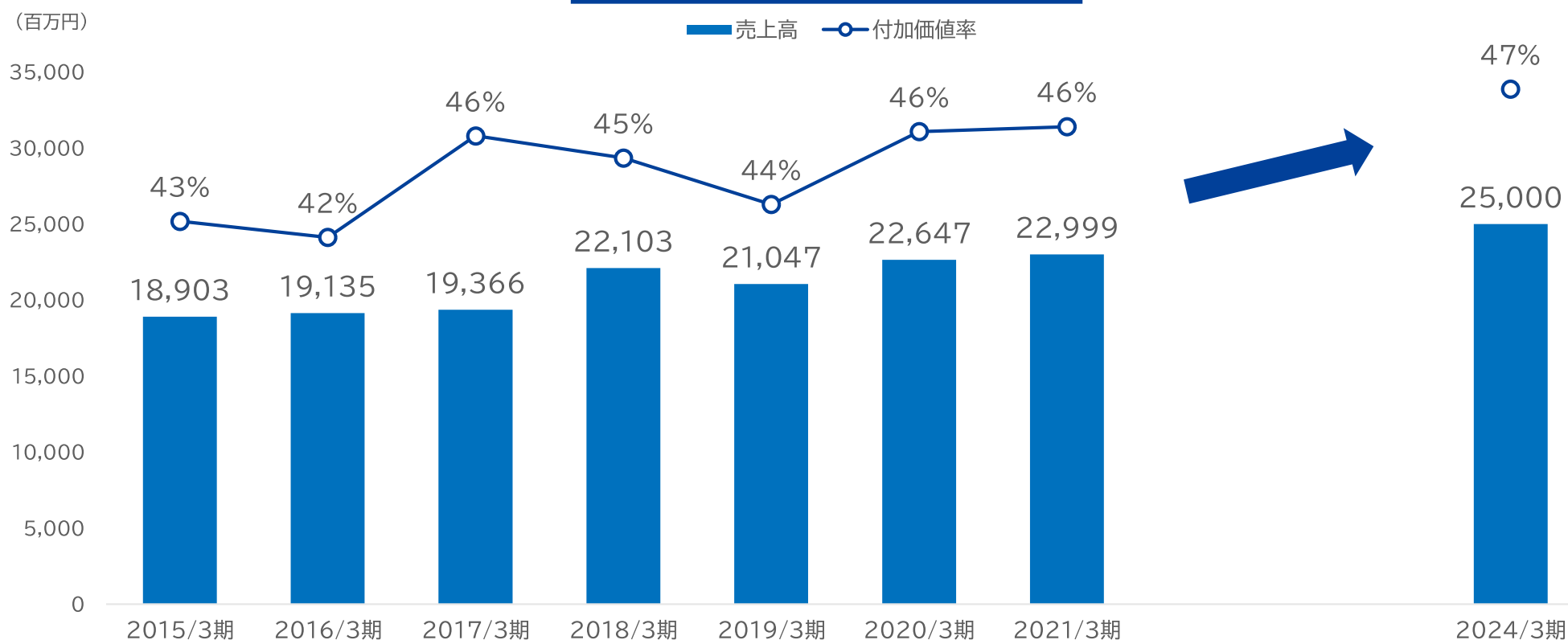


重点分野	関連するSDGs	現在の取り組み	1st STEPでの対応策
脱炭素社会の実現	   	<ul style="list-style-type: none"> 産官学連携による燃料電池部品開発 太陽光パネルの設置 照明の完全LED化推進 	<ul style="list-style-type: none"> 燃料電池部品の事業化 太陽光パネルの増設(津軽工場に設置予定) 二酸化炭素排出量の測定と開示法の策定
誰もが活躍できる社会の実現	 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てのしやすい環境の整備(プラチナくるみん*) 在宅勤務制度の実施 健康優良企業「銀の認定」 	<ul style="list-style-type: none"> 制度活用促進によるプラチナくるみんの継続 女性比率の向上と女性管理職の育成 障がい者・外国籍雇用体制の更なる拡充 健康優良企業「銀の認定」更新
みんなが幸せになれる社会の実現	   	<ul style="list-style-type: none"> フードバンク活動 学習支援活動への協賛 地域活動、スポーツ団体への協賛 ボランティア休暇制度実施 	<ul style="list-style-type: none"> 採用活動や経済活動を通じた地域との共生 リサイクル活動強化

*プラチナくるみん：次世代育成支援対策促進法に基づき、仕事と子育ての両立支援に取り組んでいる企業を認定

- ウェアラブル端末向けコネクタ、パワー半導体用リードフレームなど高付加価値品の拡大による増収効果と付加価値率(限界利益率)引き上げによる利益成長を目指す

売上高と付加価値率(限界利益率)



*付加価値=売上高-変動費(材料費、外注加工費、商品仕入れ等)

6.2022年3月期業績予想



- 売上高は、4Qに例年並みの季節調整が入る前提に、前期並みを予想
- 一方で、高付加価値品の増収により営業増益を予想
- 当期純利益は繰延税金資産の追加計上など一時的な増益要因がなくなることから、減益と予想

	2021/3期		2022/3期		期比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	予想 (百万円)	売上比 (%)	前年比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	22,999	100.0	23,000	100.0	+0.0	-
売上総利益	3,815	16.6	3,850	16.7	+0.9	+0.1
販管費	2,252	9.8	2,200	9.6	△2.3	△0.2
営業利益	1,563	6.8	1,650	7.2	+5.5	+0.4
経常利益	1,561	6.8	1,600	7.0	+2.5	+0.2
当期純利益	1,489	6.5	1,350	4.6	△9.3	△1.9
1株当たり純利益	221.66円	-	200.79円	-	-	-

- ・ リードフレームはパワー半導体向けなどの伸長により増収を予想
- ・ コネクタ用部品はスマートフォン・ウェアラブル端末向けは堅調な推移と予測するが4Qの季節調整を前提に前期並みを予想

	2021/3期		2022/3期		
	実績 (百万円)	構成比 (%)	予想 (百万円)	構成比 (%)	前年比 (%)
IC・トランジスタ用 リードフレーム	7,287	31.7	7,423	32.3	+1.9
オプト用 リードフレーム	2,639	11.5	2,697	11.7	+2.2
コネクタ用部品	12,384	53.8	12,450	54.1	+0.5
その他	688	3.0	427	1.9	△37.9
合計	22,999	-	23,000	-	+0.0

- コネクタ用部品では津軽工場増築に伴う設備投資が大きく増加
- その他の設備投資はERPシステムの入れ替え等に伴うもの
- 津軽工場の新棟の竣工は11月末を予定しており、減価償却費の増加は軽微

	2021/3期	2022/3期	
	実績 (百万円)	予想 (百万円)	前年比 (%)
設備投資	2,173	4,119	+89.5
IC・トランジスタ用リードフレーム	210	223	+6.1
オプト用リードフレーム	184	235	+27.7
コネクタ用部品	1,732	3,290	+89.9
その他	45	370	+722.2
減価償却費	1,546	1,600	+3.4

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。